

国語科

教科名	国語科	科目名	国語総合(現代文)
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る。		
履修学年	1年	類型	
単位数	2/5単位	履修形態	必修
教科書	国語総合 改訂版 現代文編(大修館書店)	副教材等	新版四訂 新訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を伸ばす。
- (2) 伝え合う力を高め、思考力を伸ばし、言語感覚を磨く。
- (3) 言語文化への関心を高め、近代以降の様々な文章を読み、読書に親しむ態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 様々な問題について自分の考えを持ち、筋道を立てて意見を述べる。
- (2) 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりする。
- (3) 課題を解決したり考えを深めるために、相手の立場や考えを尊重して話し合う。
- (4) 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えてまとめる。
- (5) 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめる。
- (6) 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てる。
- (7) 文章の内容を叙述に即して的確に読みとったり、必要に応じて要約したりする。
- (8) 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりする。
- (9) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。
- (10) 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
- (11) 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを身につける。
- (12) 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表現の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
- (13) 常用漢字の読みに慣れ主な常用漢字が書けるようにする。
- (14) 教材は教科書を中心に、プリント等を活用し、まとまった文章読解ができるようにする。
- (15) 読書ノートを活用する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、自分の考えを持ち、積極的に発言、表現する姿勢を持つこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、日常の言語活動に利用すること。
- (3) 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確に捉えること。また、書き手の考えやその展開などについて意見を書くこと。
- (4) 文学的文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わうこと。また、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。
- (5) 様々な文章を読んで人物、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させるとともに興味関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。
- (6) 課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

(1) 「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

(2) 「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

(3) 「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

(4) 「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

(5) 「知識・理解」【知】

近代以降の様々な文章の読解を通して、語彙・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤ 評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。なお、学年末の評定は「国語総合」の中の「現代文」「古典」の二つの領域を総合して評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査及び小テストの結果

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	評論(四)	他者を理解するということ(鷺田清一)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 前期中間考査
5	評論(一)	水の東西(山崎正和)	
6	近代の小説	羅生門(芥川龍之介)	
7	評論(二)	人は独創的でありたいか(小熊英二)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 前期期末考査
8	表現	読書ノート・読書感想文の書き方指導 ※課題・・・読書感想文	
9	評論(八)	メディアとしての顔(原島博)	
9	現代の小説	鏡(村上春樹)	
10	評論(三)	「美しさの発見」について(高階秀爾)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 後期中間考査
10	評論(六)	言葉についての新しい認識(池上嘉彦)	
11	近代の小説	夢十夜(夏目漱石)	
12	評論(七)	グローバル化とグローバリズム(平川克美)	学習内容に意欲的に取り組むことができたか。【関】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 表現を味わい、情景や心情を理解することができたか【読】 読解をもとに、読みとった内容を正しく表現できたか。【書】 読解した内容を、わかりやすく表現できたか。【話】 読解した内容をもとに、自分の意見を表現できたか。【書】【話】 後期期末考査
1	表現	意見文を書く	
2	評論(九)	白(原研哉)	
2	随想・詩歌	短歌を訳す ― 言葉の壁を越えて(俵万智)	
3	評論(五)	自然と人間の関係をとおして考える(内山節)	

国語科

教科名	国語科	科目名	国語総合(古文・漢文)
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝えあう力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重する態度を養う。		
履修学年	1年	類型	
単位数	3/5単位	履修形態	必修
教科書	国語総合改訂版古典編 大修館書店	副教材等	新精選古典文法改訂版(東京書籍)・漢文必携四訂版(桐原書店)・ 新訂総合国語便覧(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 国語を適切に表現し、理解する能力を伸ばす。
- (2) 伝え合う力を高め思考力を伸ばし、言語感覚を磨く。
- (3) 言語文化に関する関心を高め、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
- (2) 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
- (3) 文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりなどを十分に理解する。
- (4) 必要に応じて口語訳を行い、文章の内容を正確に把握する。
- (5) 古典常識の理解を深め、文章の構成を確かめたり表現の特色をとらえたりする。
- (6) 文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを表現に即して読み味わう。
- (7) 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりする。
- (8) 文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (9) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。
- (10) 教科書を中心に、プリント等を活用し、まとまった文章読解ができるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明と共に、現代文と意味・用法の異なる古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

①「関心・意欲・態度」【関】

自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。

②「話すこと・聞くこと」【話】

「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。

③「書くこと」【書】

誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。

④「読むこと」【読】

表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

⑤「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。なお、学年末の評定は「国語総合」の中の「現代文」「古典」の二つの領域を総合して評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査及び小テストの結果

⑥授業計画

具体的な内容の※印は進捗状況によっては抜かない場合がある。

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	古文 入門	児のそら寝 「宇治拾遺物語」 ※絵仏師良秀 「宇治拾遺物語」 <small>歴史的仮名遣い 古語 品詞の種類</small> 活用と活用形 動詞の活用 形容詞の活用 形容動詞の活用	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。【関】 読解した内容を、分かりやすく表現できたか。【話】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【書】
5	漢文 故事成語	漢文 訓読のきまり 訓読に親しむ <small>送り仮名 返り点 助字 再読文字 書き下し文</small> 再読文字のまとめ	表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】 古語の特徴、用言の活用、訓読の基本について、正しく理解できたか。【知】
6	古文 物語	芥川 「伊勢物語」 ※東下り あづさ弓 「伊勢物語」	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。【関]
7	古文 随筆	これも仁和寺の法師 「徒然草」 ある人弓射ることを習ふに 「徒然草」	読解した内容を、分かりやすく表現できたか。【話】
8	漢文 史伝	先従隗始 「十八史略」 臥薪嘗胆 「十八史略」	読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【書】 表現に留意し、内容を正しく理解することができたか。【読】
9	古文 物語・日記	門出 「土佐日記」 帰京 「土佐日記」	古典分法、訓読のきまりについて、正しく理解できたか。【知】 前期期末考査
10	漢文 物語	人面桃花 「本事詩」	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。【関】 読解した内容を、分かりやすく表現できたか。【話】
	古文 軍記	木曾の最期 「平家物語」 <small>敬語の性質と種類</small>	読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【書】 表現を味わい、内容や心情を正しく理解することができたか。【読】
11	漢文 文章	雑説 韓愈 ※黔之鱷 「柳河東集」	古典分法、敬語について正しく理解できたか。【知】
12	古文 随筆	雪のいとう高う降りたるを 「枕草子」	後期中間考査
1	漢文 漢詩	唐詩の世界	学習活動に意欲的に取り組むことができたか。【関】 読解した内容を、分かりやすく表現できたか。【話】 読解をもとに、読み取った内容を正しく表現できたか。【書】
2	古文 和歌	新古今和歌集	表現を味わい、内容や心情を正しく理解することができたか。【読】 古典分法、和歌の修辭について、正しく理解できたか。【知】
3		1年次の古文・漢文基本事項の復習・確認 <small>読解問題・演習問題</small>	後期期末考査

数学科

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ・A
科目の目標	(1) 論理的な思考ができるようにする。 (2) 数学の初歩について、深く、かつ、しっかり知識を習得し、さまざまな具体的な場面でこれらの数学的知識を適用する能力と技術を身につける。 (3) 現代の科学技術を考え、それらの数学的方法を知る。		
履修学年	1年	類型	共通
単位数	6単位	履修形態	必修
教科書	数学Ⅰ、数学A 改訂版(数研出版)	副教材等	4step数学Ⅰ+A(数研出版)

1学習の目標

- ✔ (1) 「数と式」では、数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。
- ✔ (2) 「2次関数」では、具体的な事象の考察や2次不等式を解くなど活用できるようにする。
- ✔ (3) 「平面図形」では、基本的な図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。
- ✔ (4) 「図形と計量」では、三角比の意味、鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の性質を理解し、活用できるようにする。
- ✔ (5) 「データの分析」では、統計資料の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。
- ✔ (6) 「場合の数と確率」では、順列・組合せや確率について理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにする。
- ✔ (7) 「図形の性質」では、平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
- ✔ (8) 「整数の性質」では、整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。

2学習内容と授業の進め方

- ✔ (1) 中学校で学習した数の範囲を拡張し、1次不等式や2次不等式の解法を学習する。
- ✔ (2) 2次関数の最大・最小について学習し、グラフを活用して2次不等式の解法を学習する。
- ✔ (3) 三角比や、それをを用いた図形の辺や角、面積などを学習し、多角形の面積や空間図形の体積、球の表面積・体積を学習する。
- ✔ (4) 三角形の重心、外心、内心の証明、チェバの定理、メネラウスの定理を学習する。
- ✔ (5) 順列、組合せを応用し、円順列、重複順列、および、同じものを含む順列などを学習する。
- ✔ (6) 命題、条件について一般的なことがらを整理し、図表示による集合の包含関係と関連づけながら、必要条件・十分条件や対偶について学習する。

3学習に当たっての留意点

- ✔ (1) 学習する内容を理解するだけでなく、学習する目的や必要性も意識すること。
- ✔ (2) 単に公式を暗記するのではなく、公式ができた理由やその活用の仕方から数学的な見方や考え方のよさを感じ取ること。
- ✔ (3) 「なぜ」「どうして」という疑問をもちながら授業に参加すること。
- ✔ (4) 数学は積み重ねが大切な教科である。必ず予習をし、授業のあった日は必ず副教材で復習すること。この繰り返しで学力の向上につながります。

4評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。

(2) 数学的見方や考え方

【見】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。

(3) 数学的な技能

【技】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。

(4) 知識・理解

【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

5評価の方法

定期考査、単元テスト、夏休み・冬休み明け小テスト、課題プリントなどの提出物の内容、学習活動への「関心・意欲・態度」、数学的な「見方や考え方」、「表現・処理」及び「知識・理解」の観点から総合的に評価します。

6 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	数 I 第1章 数と式		<ul style="list-style-type: none"> ・単項式や多項式, 整式, 同類項, 次数について理解している。[知] ・ある文字に着目して整式の同類項をまとめ, 整理することができる。[技] ・整式を降べきの順, 昇べきの順に整理できる。[知]
	1. 式の計算	<ul style="list-style-type: none"> ・整式 ・整式の加法と減法および乗法 	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の加法・減法・乗法は数の場合と同様に交換・結合・分配法則が使えることに興味をもち, 考察しようとする。[関] ・式を1つの文字におき換えることによって, 式の計算を簡略化することができる。[見] ・式の形の特徴に着目して変形し, 展開の公式が適用できるようにすることができる。[知]
	2. 実数	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解 ・実数 ・根号を含む式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・因数分解の公式を利用できる。[知] ・次数の最も低い文字に着目して降べきの順に整理し, 因数分解ができる。[技] ・有理数, 無理数, 実数について理解している。[知] ・自然数, 整数, 有理数, 実数の各範囲で, 四則計算について閉じているかどうかを考察できる。[技] ・根号を含む式の加法, 減法, 乗法の計算ができる。また, 分母の有理化ができる。[知]
5	3. 1次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・1次不等式 ・1次不等式の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次不等式に関心をもち, 問題解決に活用できる。[関] ・不等式について数学的に考察することができる。[見] ・数量の関係を表式に表現して数学的に考察できる。[技] ・1次不等式について理解し, 基礎的な知識を身につけようとしている。[知]
	数 I 第2章 2次関数		<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数とそのグラフに関心をもち, 問題解決に活用できる。[関]
6	1. 2次関数とグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・関数とグラフ ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大と最小 ・2次関数の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数的な見方や考え方が身に付き, 具体的な問題解決ができる。[見] ・関数を用いて数量の変化を調べることができる。[技] ・2次関数とそのグラフについて理解し, 基礎的な知識を身につけようとしている。[知] <p>前期中間考査</p>
7	2. 2次方程式と2次不等式	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式 ・グラフと2次方程式 ・グラフと2次不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・2次方程式において, 判別式$D=b^2-4ac$の符号と実数解の個数の関係を理解している。[知] ・2次式が一定の符号をとるための条件を, グラフと関連させて理解している。[見]

8	数 I 第3章 図形と計量		<ul style="list-style-type: none"> ・直接測ることのできない距離や角度などを求めることに興味・関心がある。〔関〕 ・三角比の表の$\sin\theta$, $\cos\theta$, $\tan\theta$ の値の意味を考えることができる。〔見〕 ・三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。〔知〕 ・座標を用いた三角比の定義を理解しており、三角比の値からθ を求めることができる。〔知〕 ・三角比を用いて、直線とx軸とのなす角が求められる。〔技〕
	1. 三角比	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張 	
9	2. 3角形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の外接円、円周角、辺の長さなどの関係を考察することができる。〔見〕 ・三角形の解法や測量問題を正弦定理や余弦定理を用いて解こうとする。〔関〕 ・空間における測量では、適当な三角形に着目して考察できる。〔技〕 ・三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。〔知〕
数 I 第2章 数と式			
	4. 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> ・集合 ・命題と条件 ・命題と証明 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の記号に関心をもち、論理・命題を積極的に活用できる。〔関〕 ・必要十分条件を通し、数学の見方や具体的な事象を考察できる。〔見〕 ・記号やベン図を用いて、命題の真偽が判定できる。〔技〕 ・対偶による証明法や背理法のしくみを理解し、これらを適切に利用し、命題を証明することができる。〔見〕〔知〕 <p>前期期末考査</p>
10	数A 第1章 場合の数と確率		
	1. 場合の数	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・円順列・重複順列 ・組合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数の公式を利用できる。〔知〕 ・ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。〔見〕 ・1つの原則を決めて、樹形図などを利用して、もれなく重複することなく数えようとする。〔関〕 ・既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。〔見〕 ・具体的な問題に対して、どのような場合に、円順列、重複順列の考え方が適用できるかを見極めて、それらの公式を使うことができる。〔技〕 ・組合せに条件が付く場合に、条件の処理の仕方を理解している。〔知〕
11	2. 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件付き確率 	<ul style="list-style-type: none"> ・確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。〔知〕 ・不確かな事象を、同様に確からしいという概念をもとに、数量的にとらえることができる。〔見〕 ・確率の基本性質を理解し、和事象、余事象の確率の求め方がわかる。〔知〕 ・複雑な独立試行の確率を、公式や加法定理などを用いて求めることができる。〔技〕 ・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。〔関〕 ・条件付き確率を利用して原因の確率が求められる。〔見〕〔知〕

			後期中間考査
12	数A 第2章 図形の性質		<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。[知] ・チェバの定理・メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。[関] ・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めたり、円と四角形の様々な性質を証明できる。[知] ・接線と弦の作る角についての定理を証明する際に場合分けをしながらか考察することができる。[見] ・方べきの定理を利用して、線分の長さを求めたり、図形の性質を証明することができる。[知] ・平行線と線分の比の性質を利用すると、内分点・外分点が作図できたり、b/a や ab の長さをもつ線分が作図できることに気付く。[見]
	1. 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形の辺の比 ・三角形の外心、内心、重心 ・チェバ・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・方べきの定理 ・2つの円の位置関係 ・作図 	
	2. 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・直線と平面 ・多面体 	<ul style="list-style-type: none"> ・空間における直線と平面が垂直になるための条件を、正四面体に当てはめて考察できる。[見] ・正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。[知] ・オイラーの多面体定理を利用すると、正多面体の面の形から面の数が限定されることに関心をもつ。[関]
1	数A 第3章 整数の性質		<ul style="list-style-type: none"> ・ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。[技] ・平方数になる条件を、素因数分解の結果から考察することができる。[見] ・2数の最小公倍数は2数の素因数のすべてを因数とするとことを理解し、それを利用して問題を考察することができる。[知][見] ・整数をある正の整数で割った余りで分類して、簡単な整数の性質を証明することができる。[技] ・素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。[関] ・互除法を利用して、a, bが互いに素であるとき、$ax+by=c$を満たす整数x, yの組を求めることができる。[技] ・係数が大きい場合の1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。[技] ・位取り記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。[知] ・分数が有限小数で表される条件、循環小数で表される条件を論理的に考察することができる。[見]
2	1. 約数と倍数	<ul style="list-style-type: none"> ・約数と倍数 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算と商および余り 	
	2. ユークリッドの互除法	<ul style="list-style-type: none"> ・ユークリッドの互除法 ・1次不定不等式 	
	3. 整数の性質の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・n進法 ・分数と小数 	

		後期期末考査
	数 I 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> ・平均値や中央値, 最頻値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。[技] ・四分位範囲の定義やその意味を理解し, それを求め, データの散らばりを比較することができる。[知][技][見] ・標準偏差によって, データの平均値からの散らばり具合を比較することができる。[見] ・相関係数の定義とその意味を理解し, 定義に従ってそれを求めることができる。[知][技] ・表計算ソフトの基本的な計算式について理解している。[知]
3	数学 I・Aの学習が終了した後、数学 II の「いろいろな式」の内容を学習する。	

地理歴史・公民科

教科名	公民科	科目名	現代社会
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
履修学年	1年	類型	
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	高等学校新現代社会新訂版(清水書院)	副教材等	ライブ!現代社会資料2017(帝国書院)、完全MASTERセンター試験現社問題集

①学習の目標

- (1) 現代社会における社会的課題等に対して、自ら追求しようとする姿勢を養うために、グローバル化・少子高齢化を大きな枠組みとして、社会の構築に関する歴史、人間と社会の関わりについて理解し、現代から未来を生きるものとして重要な幸福・正義・公正の在り方について考える力を養う。
- (2) 現代社会の課題について主体的に考え、公正に判断できる力を養う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) グローバル化の進展では、国内社会と国際社会の関係に留意し、政治や法・経済の基本的な概念について解説しながら、現代社会における課題について考察していきます。
- (2) 少子高齢化の進展では、少子高齢化の進展に関わる社会保障や日本の財政、地方自治について解説しながら、少子高齢化社会における課題について考察していきます。
- (3) 社会の中で生きる人間のあり方に留意し、人間と社会の関わりにおける課題の具体的な事例等を解説しながら、社会と人間がどのように関わるべきかに関する課題について考察していきます。
- (4) 目標を達成するために、講義を行います。外部人材の登用やグループ学習・レポート作成など考察し、言語による表現活動も行います。

③学習に当たっての留意点

中学校までの社会の学習を踏まえて、グローバル・少子高齢化時代という柱を基に、社会の中で生きることを考察することで現代社会に対する認識を広げていきます。中学校までの学習を基礎としていることに着目し連続性・連動性を意識して下さい。

現代社会は、公民という教科の1つの科目として位置づけられていますが、高校地歴・公民科(社会科)の導入科目にあたり、2年次以降に学習する地歴(世界史、日本史、地理)及び公民(倫理、政治・経済)の学習や社会科学の方法を学ぶための基礎科目としての性格を持っています。

上記のような性格があることから、事項の暗記にとどまらず自己の興味・関心の幅を広げてください。1年間の学習を通して、社会の様々な事象に興味・関心を持ち、自ら考え・調べる態度を養い、自己の生き方を自ら判断していく能力を身につけてください。

④評価の観点

- | | |
|---------------------|---|
| (1) 関心・意欲・態度
【関】 | 自ら進んで現代社会に対する関心を高め、意欲的に課題を追求しようとする姿勢をもち、主体的に参加しようとする態度を持っているか。 |
| (2) 思考・判断・表現
【思】 | 現代社会の諸問題について、社会の変化やさまざまな立場をふまえて考察し、自らの意見を自らの言葉で適切に表現することができるか。 |
| (3) 技能
【技】 | 現代社会の諸問題に関するさまざまな資料を適切に収集し、それを効果的に活用し、考察の過程等を適切な方法で表現することができるか。 |
| (4) 知識・理解
【知】 | 現代社会の諸問題を読み解く上で必要な基本的な知識を身につけ、理解できているか。 |

⑤評価の方法

定期考査・課題論文の提出等をふまえて、総合的に評価判定を行います。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4		教科オリエンテーション(現代社会の学び方) ※グローバル時代を考える	・グローバル時代における社会的課題を認識し、国際社会の成立における原則を踏まえ、国際政治の現状や国際経済の現状について理解している。 【知識・理解】
5	第2編 第5章国際政治とそのしくみ	1 国際社会の成立と国際法 2 国際連合の役割としくみ 3 国際社会における人権保障	・グローバル社会における社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。 【思考・判断】
6			
7			
8	第3編 第3章国際政治と日本	1 国際取引と国際収支 2 自由貿易とその進展	・グローバル社会における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。 【資料活用の技能・表現】
9	第2編 第6章現代の国際社会と日本	1 第二次世界大戦後の国際政治 2 現代世界の政治動向 3 現代の紛争 4 軍縮と大量破壊兵器の廃絶 5 日本外交と国際平和の実現	・グローバル社会における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】
	第3編 第3章国際政治と日本	3 国際経済の現状と日本 4 世界の貧困と国際協力	
		前期期末考査	
10	序章 第5章現代社会の今日的課題	1 人口減少社会と高齢化 2 人口減少社会におけるまちづくり	・少子高齢時代における社会的課題を認識し、社会保障の在り方や日本の財政・地方自治の在り方との関連を踏まえ、現状について理解している。 【知識・理解】
11	第3編 第2章経済活動のあり方	6 社会保障の意義・仕組みとその課題	・少子高齢時代における社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。 【思考・判断】
	第3編 第1章経済社会とその仕組み	1 市場と経済主体 4 財政とその働き	・少子高齢時代における社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。 【資料活用の技能・表現】
	第2編 第4章現代日本の政治機構と政治参加	5 地方自治と住民生活	・少子高齢時代における社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】
		後期中間考査	
11		※社会の中で生きる	・現代社会における社会参加の意義を認識し、現状について理解している。【知識・理解】
12	第1編 第3章近・現代の社会と倫理	1 近代思想の形成	・社会の中での人間が引き起こした社会的課題の解決方法について、学習した知識を基にして考察することができる。 【思考・判断】
2	序章 第3章科学技術と生命倫理	1 テクノロジーの進歩と生命倫理 2 決定権は誰のものか 3 私たちがめざす未来とは	・社会における人間との関わりの中で社会的課題の認識のために、効果的に資料を活用し、客観的データを基に課題の提示を行うことができる。 【資料活用の技能・表現】
	序章 第4章高度情報化社会と現代の課題	1 高度情報化社会と経済 2 高度情報化社会の課題 3 現代の倫理的課題	・社会的課題を学習した内容から、どのように解決すべきか、自己の在り方生き方と連動させながら、関心を深めることができる。【関心・意欲・態度】
	第1編 第3章近・現代の社会と倫理		
	第1編 第1章青年のあり方と現代	1 青年期と私たち 2 自分らしさとは何だろうか 3 現代社会と私たち	
		後期期末考査	
3	第2編 第4章現代日本の政治機構と政治参加	※主権者として 6 政党・選挙と政治参加 3 裁判所の役割 4 裁判と裁判員制度	

理科

教科名	理科	科目名	物理基礎
科目の目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら物理現象やエネルギーの関心を深める。 (2)実験や観察、問題演習を通して物理的な見方を養う。		
履修学年	1年	類型等	
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	物理基礎(実教出版)	副教材等	セミナー物理基礎(第一学習社)

①学習の目標

「物体の運動とエネルギー」

- ・運動にはどのような種類があるか、速度と時間、変位と時間などのグラフの意味
- ・身近な落下運動の計算ができること
- ・目には見えない力のをどのように表現するか。また力により運動にどのような影響を与えるかを理解する。
- ・エネルギーの概念を理解させ、力学的エネルギー保存則により各現象を理解する能力を育て、定量的取り扱いも習熟させる。

「波動」

- ・身近な波動現象の基本的性質(横波と縦波、定常波、反射など)を理解する。

「熱と電気」

- ・目には見えない熱の定量的な扱い方を通して、高校理科の基本的スタンスを理解する。
- ・熱の諸量を定量的に扱えるようになることを目指す。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・演示実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認すること。

③学習に当たっての留意点

まず授業をしっかり理解すること。暗記ではなく法則を正しく理解した上で多くの演習問題を解くことが大切である。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

【関】 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

(2) 思考・判断

【思】 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的に総合的に考察し、科学的に判断する。

(3) 観察・実験の技能表現

【技】 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。

(4) 知識・理解

【知】 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥ 授業計画

最初に「2章2節 熱と仕事」を学習して数的処理に慣れてから、「1章 物体の運動(力学)」を学習する。(2単位)

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点別項目を記入)
4	2章 エネルギー 2節 熱と仕事	1. 熱と温度 A. 熱運動、D. 物質の三態 C. 熱容量と比熱、熱の伝わり方と熱平衡	・熱の概念【関】【思】【技】【知】 ・熱量保存の簡単な問題が解けること 【関】【思】【知】
5		2. 熱と仕事 A. 熱と仕事、B. 熱力学第一法則、C. 熱機関	・熱を仕事に変換すること 【関】【思】【知】
	1章 物体の運動 1節 運動の表し方	1. 速度 A. 速さ、B. 等速直線運動、C. 速度、 D. 位置と変位、E. 平均の速度、F. 瞬間の速度 速度、速さ、ベクトル、スカラーなどの概念	・運動の数式化、グラフ化することができる。【関】【思】【技】【知】
6		G. 速度の合成、H. 相対速度	前期中間考査
		2. 加速度 A. 加速度、B. 等加速度直線運動	・数式を立てて運動を予測する 【関】【思】【技】【知】
7		3. 落体の運動 A. 重力による加速度、B. 自由落下運動 C. 鉛直投げ下ろし運動、D. 鉛直投げ上げ運動	・加速度運動を落下運動に応用する 【関】【思】【技】【知】
8			
9			前期期末考査
	2節 力	1. 力 A. 力とは、B. 力の表し方、C. 重力と質量 D. いろいろな力、E. 力の測り方	力を正確にベクトルで描くことの定着化 【関】【思】【技】【知】
		2. 力のつり合い A. 力の合成、B. 力の分解、C. 力のつり合い	さまざまな力をつかってつりあいの式を立てることができる【関】【思】【技】【知】
		3. 作用と反作用 A. 作用反作用の法則、B. 力のつり合いと作用反作用	力のつりあいと作用反作用の違いを、ベクトルを作図して区別できる【関】【思】【技】【知】
		4. いろいろな力 A. 静止摩擦力、B. 動摩擦力	さまざまな力をつかってつりあいの式を立てることができる【関】【思】【技】【知】
10	3節 運動の法則	1. 慣性の法則 A. 慣性の法則、B. 身の回りの慣性	運動が3つの法則に従うことを理解し、見えない力をベクトルで作図し、合力にまとめ、正しく運動方程式を書き下す。
		2. 運動の法則 A. 力と加速度、B. 質量と加速度、 C. 運動の法則、D. 運動の三法則	【関】【思】【技】【知】
		3. 運動方程式の活用 A. 1物体の場合 B. 2物体の場合 C. 空気抵抗を受ける物体の運動	運動方程式で様々な現象を表す 【関】【思】【技】【知】
11			後期中間試験
	2節 力	4. いろいろな力 C. 気圧と水圧、D. 浮力	流体から受ける力の特徴を理解する 【関】【思】【技】【知】
12	2章 エネルギー 1節 運動とエネルギー	1. 運動とエネルギー A. 仕事、B. 力と変位の向きが異なる場合の仕事 C. 仕事の原理、D. 仕事率、E. 仕事とエネルギー	・仕事の定義、計算【関】【思】【技】【知】 ・仕事とエネルギーの関係【関】【思】【技】【知】
1		2. 運動エネルギー A. 仕事と運動エネルギー、B. 運動エネルギーの変化と仕事	・運動エネルギーの定義と仕事の関係の導出【関】【思】【技】【知】
		3. 位置エネルギー A. 重力による位置エネルギー、B. 弾性力による位置エネルギー	・位置エネルギーの定義
		4. 力学的エネルギー保存の法則 A. 力学的エネルギー、B. 力学的エネルギー保存の法則 C. ばね振り子の運動、D. 力学的エネルギーが保存されない場合	・エネルギー保存について【関】【思】【技】【知】 ・エネルギー保存が成り立たない場合について【関】【思】【技】【知】
2	3章 波 1節 波の性質	1. 波とは何か A. 波、B. 波の発生、C. 波の表し方	・波の基本的な物理量【関】【思】【技】【知】
		D. 横波と縦波	後期期末試験 ・縦波・横波の理解【関】【思】【技】【知】
3		2. 重ね合わせの原理 A. 重ね合わせの原理、B. 定常波、C. 波の反射	・作図の技能【関】【思】【技】【知】

理科

教科名	理科	科目名	化学基礎
科目の目標	物質の変化の学習を通して、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。		
履修学年	1年	類型等	
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	改訂 化学基礎(東京書籍)	副教材等	三訂版 リードLight 化学基礎(数研出版) 五訂版スクエア最新図説化学(第一学習社)

①学習の目標

「化学と人間生活」

化学と人間生活のかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解するとともに、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身につける。

「物質の構成」

物質の性質について観察、実験などを通して自ら学び探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解する。また、原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。

「物質の変化」

化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・演示実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

自然の事物・現象に関心を持ち、自らそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

【関】

(2) 思考・判断

観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考え、分析的に総合的に考察し、科学的に判断する。

【思】

(3) 観察・実験の技能表現

観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。

【技】

(4) 知識・理解

観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

【知】

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点別項目を記入)
4	序編 化学と人間生活		
	1 人間生活の中の化学	物質について学ぶ「化学」、文明は金属とともにセラミックス、プラスチック、繊維	・混合物の分離の方法にはどのようなものがあるか。 ・物質の三態を粒子の熱運動から説明できるか。【関】【知】
5	2 化学とその役割	食料の確保、食料の保存、洗剤、物質と環境リス	・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【思】【技】 混合物の分離 硫黄の同素体
	第1編 物質の構成		
6	1章 物質の探究	① 純物質と混合物 ② 化合物と元素 ③ 物質の三態	・原子の構造を理解できたか。 ・イオンの生成の仕組みとイオン式を理解できたか。
	2章 原子の構造と元素の周期表	①原子の構造 ②元素の周期律と周期表 前期中間考査	・周期表から分かることは何か。 ・化学結合とは何か。 ・化学結合にはどのような種類があるか。
7	3章 化学結合	① イオン ② イオン結合 ③ 共有結合 ④ 配位結合 ⑤ 分子間の結合 ⑥ 金属結合 ⑦ 化学結合と物質の分類・用途 探究活動	【関】【知】 ・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【思】【技】 アルカリ金属の性質
	第2編 物質の変化		
8	1章 物質と化学式	① 原子量・分子量・式量 ② 物質量 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応と量的関係	・モルとは何か。 ・化学反応における量的関係はどうなっているのか。
9		前期期末考査	【関】【知】
10	2章 酸と塩基	① 酸と塩基 ② 水素イオン濃度電離とpH ③ 中和反応と塩の生成 ④ 中和滴定	・酸・塩基とはどんな物質で、どんな性質があるのか。 ・酸と塩基が中和して生じた水溶液は中性なのか。
11		後期中間考査	【関】【知】 ・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【思】【技】 中和滴定
12	第3章 酸化還元反応	① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ さまざまな酸化還元反応	・電子の授受と酸化・還元の関係はどうなっているのか。 ・酸化剤と還元剤の量的な関係はどうなっているのか。 ・金属のイオン化傾向と金属の反応性はどのような関係があるか。
1			【関】【知】
2		後期期末考査	【関】【知】 ・次の実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【思】【技】 酸化還元反応 金属のイオン化傾向
3			

理 科

教科名	理科	科目名	生物基礎
科目の目標	(1)生物と遺伝子、生物の体内環境の維持や多様性を理解する。 (2)生物や生命現象について、生物学的な探究の態度、思考力を深める。		
履修学年	1年	類型	
単位数	2単位	履修形態	必修
教科書	高等学校 生物基礎(第一学習社)	副教材等	リードα 生物基礎(数研出版) スクエア最新図説生物neo(第一学習社)

①学習の目標

- (1)生物が細胞から成り立っていることを理解するとともに、代謝や光合成、呼吸について観察、実験などを通して探究する。また、遺伝情報とタンパク質の合成、細胞内での遺伝子の発現について理解を深め、生命について連続性の概念を考察できるようにする。
- (2)生物の体内環境と恒常性について、生体防御、自律神経とホルモンの働きを理解し、内部環境を一定に保つickみを日常生活と関連付けて考察できるようにする。
- (3)生物の多様性と生態系について理解を深め、生態系や自然環境の保全に物質の循環やエネルギーの流れが関与していることを考察できるようにする。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、授業中心に解説・実験を行う。各分野ごとに生徒実験を通して学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1)授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2)実験による確認ができない内容は、図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- | | |
|----------------------|---|
| (1)関心・意欲・態度
【関】 | 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。 |
| (2)思考・判断
【思】 | 観察・実験などを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、科学的に判断する。 |
| (3)観察・実験の技能表現
【技】 | 観察・実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。 |
| (4)知識・理解
【知】 | 観察・実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 |

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	第1章 生物の特徴	(1) 生物の多様性と共通性 (2) 細胞とエネルギー	・生物に共通する細胞レベルでの生命活動について理解できたか。【関】【思】 ・顕微鏡のしくみ、細胞の観察などの実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】 前期中間考査
5			
6	第2章 遺伝子とその働き	(1) 遺伝現象と遺伝子 (2) 遺伝情報の複製と分配 (3) 遺伝情報とタンパク質の合成	・遺伝子と遺伝情報、タンパク質合成について理解できたか。【関】【思】 ・だ腺染色体の観察などの実験を通して事物・現象を科学的に探究できたか。 【技】【知】
7			
8	第3章 生物の体内環境	(1) 体液とその働き (2) 生体防御 (3) 体内環境の維持のしくみ	・生物の体内環境と恒常性について理解できたか。【関】【思】【知】 前期末考査
9			
10	第4章 バイオームの多 様性と分布	(1) 生物の多様性とバイオーム (2) バイオームの形成過程 (3) バイオームとその分布	・生物の多様性とバイオームの形成について理解できたか。【関】【思】 ・資料・VTRを通して事物・現象を科学的に探究できたか。【技】【知】 後期中間考査
11			
12			
1 2 3			
	第5章 生態系とその保 全	(1) 生態系 (2) 生態系のバランスと保存	・生態系について理解できたか。【関】【思】 後期末考査

英語科

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語 I
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。		
履修学年	1年	類型	
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書	CROWN English Communication I New Edition (三省堂)	副教材等	CROWN English Communication I New Edition 予習サブノート/WORKBOOK ADVANCED (三省堂)

①学習の目標

- (1) 習得した語彙や構文の知識を活用しながら、英語で読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどについて話し合ったり意見の交換をしたりする。
- (2) 読むことや聞くことの目的や題材の特徴に応じて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を適切に把握する。
- (3) 聞いたり読んだりして得た情報や、学んだことや経験したことに基づき、自分の考えについて内容を整理して書く。
- (4) 英語の学習を通して、言語や異なる文化についての理解を深める。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 予習サブノートを活用して、単語や熟語を辞書等で調べる。
- (2) 文章の意味や内容を考え、それに合ったリズムやイントネーションなどを意識して英文を音読する。
- (3) 英語を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握する。
- (4) 発話や音声教材を聞いて、情報や話し手の意向を理解する。
- (5) 語彙や文法事項を理解し、それを活用して情報や考えを伝える。

③学習に当たっての留意点

- (1) 予習サブノートを活用し、十分な準備をして授業に臨むこと。
- (2) 教科書・ノート・辞書・参考書等を活用し、授業内容の理解に努めること。
- (3) 授業での言語活動(ペアワークやグループワーク、発表など)には積極的・主体的に取り組むこと。
- (4) 授業内容は必ず復習し、ワークブック等で知識の定着を図るとともに、自ら発展的な内容に取り組む
- (5) 週末・長期休業中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

④評価の観点

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- (2) 外国語表現の能
英語で話したり、書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
- (3) 外国語理解の能
英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
- (4) 言語や文化についての知識・理解
英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

⑤ 評価の方法

基本的に次の項目を総合して評価する。

- (1) 定期考査の結果
- (2) 課題(プリント等)の提出状況
- (3) 小テストの結果
- (4) 授業での言語活動(ペアワークやグループワーク、発表など)の取り組み状況
- (5) 週末・長期休業中の課題の提出状況

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	When Words Won't Work	ピクトグラムと言語を比較し、ことばの役割とピクトグラムの有用性・可能性について考える。 【主な言語材料】 基本的な文のパターン/動名詞/助動詞のまとめ	授業内における観察評価/前期中間考査/課題(復習プリントの提出)/小テスト/[週末課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
5	Going into Space	宇宙飛行士・若田光一氏の話を通し、地球人としての生き方を考える。 【主な言語材料】 現在完了/不定詞/S+V+O(O=疑問詞節/if節)	【上記観点(1)】 ・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(4)】
6	A Canoe Is an Island	ホクレア号の航海に参加した内野加奈子の思いから、伝統文化の継承と自然とのかかわり方を考える。 【主な言語材料】 関係代名詞/分詞の形容詞的用法/S+V+C(C=that節)	
7	Seeing with the Eyes of the Heart	ピアニスト辻井伸行氏の業績を通して、ひとつのことを継続してやることの大切さを知る。 【主な言語材料】 関係代名詞 what/過去完了/S+V+O+C(C=原形不定詞)	授業内における観察評価/前期末考査/課題(復習プリントの提出)/小テスト/[週末・夏季休業中の課題]
8	Food Bank	フードバンク活動を知り、貧困やボランティア活動について考える。 【主な言語材料】 関係副詞/S+V+O+C(C=分詞)/S+V+C(C=分詞)	・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】 ・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(4)】
9	Roots & Shoots	動物学者・環境保護活動家のジェーン・グドール博士のインタビューを通して、動植物との共生を考える。 【主な言語材料】 分詞構文/it ~ that...(形式主語)/同格	
10	Paper Architect	紙管を使ったシェルターで被災地支援をおこなう建築家・坂茂を通して、被災地支援のあり方を考える。 【主な言語材料】 seem to ~: it seems that ~ / 受動態の完了形/形式目的語 it	授業内における観察評価/後期中間考査/課題(復習プリントの提出)/小テスト/[週末課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
11	Not So Long Ago	20世紀を象徴する写真を見て、歴史からなにを学び、その教訓をどう生かせるかを考える。 【主な言語材料】 仮定法過去/S+V+O1+O2(O2=疑問詞節)/付帯状況のwith	・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(4)】
12	Crossing the "Uncanny Valley"	人とはなにかを探求する研究者・石黒浩を通して、人とはなにか、ロボットとはなにかを、改めて考える。 【主な言語材料】 部分否定/used to ~; would ~ など/助動詞+be動詞+過去分詞	授業内における観察評価/後期末考査/課題(復習プリントの提出)/小テスト/[週末・冬季休業中の課題]
1	Good Ol' Charlie Brown	漫画『ピーナッツ』を通して、本当の強さとはなにかを考えるとともに、人を思いやることの大切さを知る。 【主な言語材料】 仮定法過去完了/no matter + 疑問詞/be to 不定詞	・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】 ・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】
2	Heroic Losers	敗れてもなお、観客の心をつかんだオリンピックのヒーローについて読み、真の勝者の条件を考える。	・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(4)】
3		【主な言語材料】 L1~10の復習	* GTEC for Students 実施(12月)

英語科

教科名	外国語	科目名	英語表現 I
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。		
履修学年	1年	類型	
単位数	2単位	授業形態	必修
教科書	Revised Vision Quest English Expression I Advanced	副教材等	Revised Vision Quest English Expression I Advanced WORKBOOK

①学習の目標

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養う。

②学習内容と授業の進め方

各単元に関し、基本例文を中心に別掲の英文の構造及び情報を理解し、文法・語法を習得する。習得すべき事項は、問題演習に取り組むことにより確認、定着を図る。

③学習に当たっての留意点

- (1) 参考書等を活用し、十分な準備をして授業に臨むこと。
- (2) 教科書・テキスト・ノート・辞書等を活用し、授業内容の理解に努めること。
- (3) 授業での言語活動(ペアワークやグループワーク、発表など)には積極的・主体的に取り組むこと。
- (4) 授業内容は必ず復習し、ワークブック等で知識の定着を図るとともに、自ら発展的な内容に取り組むこと。
- (5) 週末・長期休暇中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

④評価の観点

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
- (2) 外国語表現の能力
事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えている。
- (3) 言語や文化についての知識・理解
言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

⑤評価の方法

基本的に次の項目を総合して評価する。

- (1) 定期考査の結果
- (2) 課題(プリント等)の提出状況
- (3) 小テストの結果
- (4) 授業での言語活動(ペアワークやグループワーク、発表など)の取り組み状況
- (5) 週末・長期休業中の課題の提出状況

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	Lesson 1, 2	文の種類 文型と動詞	授業内における観察評価／前期中間考査／課題(復習プリントの提出)／小テスト／[週末課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
5	Lesson 7, 8	不定詞 動名詞	・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(3)】
6	Lesson 3, 4, 5	時制 完了形(現在完了・過去完了) 助動詞	
7	Lesson 9	分詞 分詞構文	授業内における観察評価／前期期末考査／課題(復習プリントの提出)／小テスト／[週末・夏季休業中の課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
8	Lesson 10	関係詞 関係代名詞・関係副詞	・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(3)】
9	Lesson 6	受動態	
10	Lesson 12	仮定法 仮定法過去・仮定法過去完了	授業内における観察評価／後期中間考査／課題(復習プリントの提出)／小テスト／[週末課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
11	Lesson 11	比較	・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】 ・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(3)】
12	補充教材①	時制の一致 話法	授業内における観察評価／後期期末考査／課題(復習プリントの提出)／小テスト／[週末・冬季休業中の課題] ・授業での言語活動への参加状況【上記観点(1)】
1	補充教材②	名詞構文 無生物主語	・表現活動の成果【上記観点(2)】 ・質問応答等の状況【上記観点(3)】
2	補充教材③	名詞・代名詞 形容詞・副詞	・まとめ、研究発表等の活動【上記観点(3)】
3	補充教材④	前置詞 接続詞	

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1) 自ら体力の向上と把握に務める。 (2) 自主自立の精神とリーダーの育成。 (3) 健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	1年	類型	男子
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書		副教材等	

① 学習の目標

- (1) 各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2) 自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3) 安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4) グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1) 個人種目では、全体指導や個別指導で記録や技能の向上をめざす。
- (2) 球技では、ゲームが楽しくできるように基本技術やルールをしっかりと習得し、理解する。
- (3) 選択種目では、幅広くスポーツを経験させ、集団またはグループで自主的に活動する。

③ 学習の留意点

- (1) 自己の記録や技能の向上をめざし、積極的に活動させる。特に反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2) 生徒の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (3) チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (4) 準備、後かたづけをしっかりとる。
- (5) 安全面に十分配慮し、活動する。特に用具の点検等・スキーでの接触事故等には十分注意する。

④ 評価の観点

- | | |
|--------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度 | 運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 |
| 【関】 | また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 |
| (2) 思考・判断 | 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。 |
| 【思】 | |
| (3) 運動の技能 | 自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。 |
| 【技】 | |
| (4) 知識・理解 | 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。また、健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につけている。 |
| 【知】 | |

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論 3時間	・運動と体力 スポーツの効果的な学習の仕方	
4 5 6	陸上(100m走) 体づくり運動 8時間	・ストレッチや体力向上トレーニング ・新体力テスト ・スタートダッシュの練習 ・もも上げ、腕振りの練習 フォームの矯正 ・記録計測	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・タイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
4 5 6	マット9時間	・下記種目などの基本練習 ・テスト種目 ①倒立前転→②開脚前転・伸膝前転→③開脚後転・伸膝後転→④後転倒立→⑤腕立て前方転回	・技の完成度を高めようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・自分の体の動きを考えながら、改善しようとしているか。【思】 ・左記規定種目をテストし、評価する。【技】 ・グループで協調し、かつ安全面に配慮し、練習できているか。【知】
4 5 6 7 8	バレーボール 14時間	・ボールになれる。 ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・グループでの連係4対4、簡易ゲーム ・ゲーム	・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・オーバーハンドパスとアンダーハンドパスのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
7 8 9	水泳(平泳ぎ) 10時間	・けのび、キック、足と腕の動き、呼吸法の練習・総合練習	・より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・合理的な泳ぎを追求しているか。【思】 ・50mを泳ぎ、距離とフォームを見て評価する。【技】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
9 10	長距離10時間	・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000M、5000Mの計測。	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・5000mタイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】

1 0 1 1	柔道12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身(横、後ろ、前回り)の練習・体捌きの練習 ・投げ技の練習 膝車、体落とし、大外刈り、出足払い、大腰 ・固め技の練習 けさ固め、横四方固め、上四方固め ・連続技の練習 約束稽古など 	<ul style="list-style-type: none"> ・技を正確に覚えるなど意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・相手の動きや体勢に応じて有効な技を選んでいるか。【思】 投げ技2種目、前回り受け身のスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・礼儀作法を重視したり、自他の安全に留意しようとしているか。【知】
1 1 1 2	バスケットボール 15時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールになれる。 ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・グループでの連係、ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ドリブルシュートのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
1 2	スキー12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・技術レベルでA、B、Cにグループ分けして実施 ・プルーク、シュテム、パラレルターンの練習 ・パラレルターン大回り、小回りの練習 ・総合滑降 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい滑走をめざし、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・滑走のフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・パラレルターン大回り、小回りのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
2 3	体育理論 3時間 選択 9時間	<ul style="list-style-type: none"> ・運動と体力 スポーツの効果的な学習の仕方 ・球技大会の種目(バレーボール・バスケットボール・卓球)をリーダーを決め、自主的に練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】

体育科

教科名	保健体育	科目名	体育
科目の目標	(1) 自ら体力の向上と把握に務める。 (2) 自主自立の精神とリーダーの育成。 (3) 健康管理と安全教育の徹底。		
履修学年	1年	類型	女子
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書	副教材等		

① 学習の目標

- (1) 各種目の運動技能の習得や体力の向上を図る。
- (2) 自主的に活動し、自主・自立の精神を育成する。
- (3) 安全面、健康面に留意し、活動する。
- (4) グループ活動などを通して、リーダーを育成する。

② 学習内容と進め方

- (1) 個人種目では、全体指導や個別指導で記録や技能の向上をめざす。
- (2) 球技では、ゲームが楽しくできるように基本技術やルールをしっかりと習得し、理解する。
- (3) 選択種目では、幅広くスポーツを経験させ、集団またはグループで自主的に活動する。

③ 学習の留意点

- (1) 自己の記録や技能の向上をめざし、積極的に活動させる。特に反復練習は、効率よく根気強く行うこと。
- (2) 生徒の健康状態や体力面を把握し、無理をしない。
- (3) チームでゲームを行う種目では、リーダーを中心に協力して楽しく活動できるようにする。
- (4) 準備、後かたづけをしっかりとる。
- (5) 安全面に十分配慮し、活動する。特に用具の点検等・スキーでの接触事故等には十分注意する。

④ 評価の観点

- | | |
|--------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度 | 運動の楽しさ喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 |
| 【関】 | また健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。 |
| (2) 思考・判断 | 自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。また健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。 |
| 【思】 | |
| (3) 運動の技能 | 自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。 |
| 【技】 | |
| (4) 知識・理解 | 運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。また、健康・安全について、課題解決に役立つ基礎的事項を理解し、知識を身につけている。 |
| 【知】 | |

⑤ 評価の方法

スキルテストを実施、日常の授業への参加態度とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	体育理論 3時間	・運動と体力 スポーツの効果的な学習の仕方	
4 5 6	陸上(50m走) 体づくり運動 8時間	・ストレッチや体力向上トレーニング ・新体カテスト ・スタートダッシュの練習 ・もも上げ、腕振りの練習 フォームの矯正 ・記録計測	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・タイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
4 5 6	バドミントン8時間	・ラケットの握り方 ・ハイクリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュなど基本練習 ・サーブ練習 ・簡易ゲーム ・ゲーム	・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ハイクリアーとドロップのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
4 5 6 7 8	バレーボール 14時間	・ボールになれる。 ・オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの練習 ・サーブの練習 ・スパイクの練習 ・グループでの連係4対4、簡易ゲーム ・ゲーム	・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・オーバーハンドパスとアンダーハンドパス、サーブのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
7 8 9	水泳(平泳ぎ) 10時間	・けのび、キック、足と腕の動き、呼吸法の練習・総合練習	・より良いフォームで泳ごうと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・合理的な泳ぎを追求しているか。【思】 ・25mを泳ぎ、距離とフォームを見て評価する。【技】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
9 10	長距離9時間	・少しずつ距離を伸ばしながら持久力をつける。 ・3000Mの計測。	・記録を向上させようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・走るフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・3000mタイム計測換算表にもとづき評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】

1011	バスケットボール 12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールになれる。 ・チェストパスなどパス練習 ・各種シュート練習 ・2対2、3対3の攻守 ・グループでの関係、ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上やゲームに意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・技術をゲームの中で、状況に応じて発揮できるか。【思】 ・ドリブルシュートのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・ルールを理解し、審判法を知っているか。【知】
1112	マット10時間	<ul style="list-style-type: none"> ・下記種目などの基本練習 ・テスト種目 ①倒立前転・3点倒立→②開脚前転→③側転→④水平バランス→⑥開脚後転・伸膝後転・後転倒立 	<ul style="list-style-type: none"> ・技の完成度を高めようと意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・自分の体の動きを考えながら、改善しようとしているか。【思】 ・左記規定種目をテストし、評価する。【技】 ・グループで協調し、かつ安全面に配慮し、練習できているか。【知】
	体づくり運動 5時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチ ・柔軟性を高めるトレーニング ・心肺機能を高めるトレーニング ・筋力を高めるトレーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を積極的に動かし、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・自分の体の動きを考えながら、動きの質を改善しようとしているか。【思】 ・健康面に留意し、安全に練習に取り組んでいるか。【知】
12	スキー12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・技術レベルでA、B、Cにグループ分けして実施 ・プルーク、シュテム、パラレルターンの練習 ・パラレルターン大回り、小回りの練習 ・総合滑降 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい滑走をめざし、意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・滑走のフォームをバランスよく、矯正しようとしているか。【思】 ・パラレルターン大回り、小回りのスキルテストを実施し、評価する。【技】 ・安全面に配慮し、練習できているか。【知】
	体育理論 3時間	・運動と体力 スポーツの効果的な学習の仕方	
23	選択 9時間	・球技大会の種目(バレーボール・バスケットボール・卓球)をリーダーを決め、自主的に練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようとしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】

89	選択3時間	・球技大会の種目(バレーボール・バスケットボール・フットベースボール)をリーダーを決め、自主的に練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー中心に意欲的に練習に取り組んでいるか。【関】 ・チーム力をあげるために戦術面など工夫しようとしているか。【思】 ・グループ内で協力し、準備、後かたづけなど円滑に行っているか。【知】
----	-------	---	---

体育科

教科名	保健体育	科目名	保健
科目の目標	(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。 (2)生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。		
履修学年	1年	類型	
単位数	1単位	履修形態	必修
教科書	現代高等保健体育(大修館)	副教材等	図説・現代高等保健(大修館)

① 学習の目標

- (1)ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりの重要性について理解を深める。
- (2)生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できる。
- (3)心身の健康の保持増進を図るための実践力を育成する。

② 学習内容と進め方

(1)現代社会と健康

現代社会のさまざまな健康問題に関して理解する。

(2)生涯を通じる健康

生涯の各段階における健康課題に応じた自己の健康管理の必要性と保健・医療制度及び保健・医療機関の適切な活用の重要性を理解する。

(3)社会生活と健康

健康の実現のための環境づくりを推進することの必要性を理解する。

③ 学習の留意点

- (1)健康に関する興味・関心をもつこと。
- (2)必要に応じて実習等を入れ、実践力をつける。
- (3)心の健康、薬物乱用、生活習慣病、感染症などの健康課題を理解する。

④ 評価の観点

- (1)関心・意欲・態度
健康の保持増進に必要な事柄について関心を持ち、意欲的に学習しようとしているか。
【関】
- (2)思考・判断
健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験をもとに、解決の方法を考え、判断しているか。
【思】
- (3)知識・理解
健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか。
【知】

⑤ 評価の方法

定期考査(前期期末、後期中間、後期期末)を3回実施し、日常の学習活動とあわせて総合的に評価する。

⑥ 授業計画

月	単元	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
	オリエンテーション	授業内容についてのオリエンテーション	
4	現代社会と健康	1 私たちの健康のすがた	・健康の保持増進に必要な事柄に関心を持っているか。 【関】
		2 健康のとらえ方	・健康の保持増進について、課題を見つけることができるか。【思】
5		3 健康と意志決定・行動選択	・健康の保持増進について、知っているか。【知】
		4 健康に関する環境づくり	
6		5 生活習慣とその予防	*次ページに続く

7		6 食事と健康	・健康の保持増進と疾病の予防についての課題に関心を持っているか。【関】
		7 運動と健康	・健康の保持増進と疾病の予防について、日常生活にあてはめ、適切な行動が選択できるか。【思】
		8 休養・睡眠と健康	
		9 喫煙と健康	
		8	
11 薬物乱用と健康			
10	現代社会と健康	12 現代の感染症	前期期末考査
		13 感染症の予防	・精神の健康の保持増進と疾病の予防についての課題に関心を持っているか。【関】
		14 性感染症・エイズのその予防	・精神の健康の保持増進と疾病の予防について、日常生活にあてはめ、適切な行動が選択できるか。【思】
		15 欲求と適応機制	
		16 心身の相関とストレス	・精神の健康の保持増進と疾病の予防について知っているか。【知】
		17 ストレスへの対処	・交通事故の原因やその防止についての課題に関心を持っているか。【関】
		18 心の健康と自己実現	
		19 交通事故の現状と要因	
12		20 交通社会における運転者の資質と責任	・交通事故の原因やその防止についての解決の方法を見つけることができるか。【思】
		21 安全な交通社会づくり	・交通事故の防止のためのいろいろな対策を知っているか。【知】
		22 応急手当の意義とその基本	・応急手当について意欲的に実習に取り組もうとしているか。【関】
1		23 心肺蘇生法	・応急手当の意義や手順を日常生活にあてはめ、正しく整理することができるか。【思】
2		24 日常的な応急手当	・応急手当の意義や手順を知っているか。【知】
3			後期期末考査
※1～2月については、スキー授業1回を体育3時間分・保健1時間分を振り替えて実施します。			

芸術科シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
履修学年	1年	類型	
単位数	1単位	履修形態	選択履修
教科書	音楽Ⅰ Tutti(教育出版)	副教材等	適宜

①学習の目標

- (1) 音楽への関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身につける。
- (2) 音楽的な感性を高め、表現したり鑑賞する能力を養う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 表現分野では、世界の歌を通して基本唱法を習得する。
- (2) 鑑賞分野では、交響曲や歌劇、ミュージカルなど幅広く映像を通して鑑賞する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 歌唱においては、基本を大切に発声や歌い方を学ぶこと。
- (2) 我が国や諸外国の文化への理解を深めること。
- (3) いろいろな作品との出会いから、新たな発見と感動を体験すること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力
【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 表現分野では実技テストを実施し、発声法や表現などを評価する。
- (2) 日常の学習活動への参加態度を評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 9	オリエンテーション 校歌 楽典 歌唱 器楽	校歌指導 校歌暗唱テスト 楽典指導 ドイツ音名、階名、音名 音程(転回音程、協和音程、全音階音程等) 階名唱(移動ド、固定ド) 音階、(長音階、短音階) 5度圏 歌唱指導 川の流れのように ドイツリート「野ばら」シューベルト作曲 イタリア歌曲「カーロ ミーオ ベン」 日本歌曲「夏の思い出」 歌唱暗唱テスト 津軽三味線 十五夜 黒田節 ソーラン節	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】
10 3	歌唱 鑑賞	歌唱指導 アメリカの歌「夢路より」 日本歌曲「この道」 日本の歌「雪の降る街を」 イタリア歌曲「カーロ ミーオ ベン」 歌唱暗唱テスト 鑑賞 サウンド オブ ミュージック 歌劇「カルメン」 その他	独唱 暗譜テスト 【関】【芸】【創】【鑑】

⑤ 評価の方法

- (1) 完成作品をもとに課題のねらいの達成度を評価する。
- (2) 制作過程での努力の姿勢、工夫の跡を評価する。
- (3) 自己評価表、自評文等を参照し、評価する。
- (4) 日常の学習活動への参加態度、積極性を評価する。
- (5) 安全を考えた技法、手順の工夫をしているかを評価する。

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4	デッサン	表現の基本としてのおさえ 自己表現(さらに自由な表現へのつながり)	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・自己評価 ・課題理解と工夫、発展 【関】 【芸】 【創】 【鑑】 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサン力 ・技法の工夫 ・観察力 ・構想力 ・抽象理解 ・現代美術 ・生活と文化
5	油絵 グリザイユ	油絵、油絵の具の理解		
6		効果的な表現の工夫		
7		混色についての理解 観察態度、表し方の工夫		
8	油絵 静物画	構図についての理解、工夫		
9		絵画的表現による自己表現		
10		形・光の関連・色彩		
11		マチエールの工夫		
12	壁飾りの製作	デザインについての理解		
1	デザイン	木彫…レリーフ的表現		
2	・木彫・七宝焼	七宝焼きについての理解と表現		
3		組立、仕上げ		

芸術科

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ
科目の目標	本校における「書道Ⅰ」では、書芸術に対する理解、および感性・創造性の育成、ならびに表現力の向上を目指すとともに、書を通して主体的に生き、さらには生きがいと潤いのある生活が送れる基礎的な力を養うことを目標とする。		
履修学年	1年	類型	
単位数	1単位	履修形態	選択履修
教科書	教育出版「書道Ⅰ」	副教材等	北海道高等学校書道教育研究会「墨心」

①学習の目標

表現および鑑賞の諸活動を通じて、書芸術を理解するとともに、青年らしい感性および個性の伸長を図り、生活をより豊かにしようとする創造性の基礎を培う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 書の表現には多様な方法、無限の可能性があることを学ぶ。
- (2) 創作書では、主体的・創造的な語・詩文の獲得をめざす。
- (3) 母校、郷土に関する教材を学ぶ。
- (4) 生活の中の書に関心を持ち、積極的に楽しむ。

③学習にあたっての留意点

本校「書Ⅰ」の履修にあたって留意すべきことの最低ラインは、次の5点とする。

- (1) 忘れ物をしない。早く教室に集合し、準備をする。
- (2) その時間ごとの準備、作品ごとの制作上の留意点の確認を怠らない。
- (3) 常に題材とする語・詩文の取材、収集に努める。
- (4) 常に前回より一歩前進、工夫・向上の跡を残すよう努める。
- (5) 「習字」と呼ばない。「書」を学んでいることに誇りを持つ。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫【芸】 感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫す
- (3) 創造的な表現の技能【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身に付けている。
- (4) 鑑賞の能力【鑑】 芸術を理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 作品ごとに、上から5～1の5段階表示をし、当該作品制作における「ねらい」が概ね達成されているものを3(並)とする。
- (2) 学期ごとの評価は、当該学期内の作品評価点をベースとし、努力の姿勢、向上の跡、工夫の跡などが見られる場合には加点し、反対の場合は減点する。その際、上記③の5項目についても評価の観点とする。なお、評価点は、教務内規に則り、100点法で表示をする。
- (3) 学年評価は、上記(2)の方法により、年間を通して算出する。
- (4) 評定は、学年評価を教務内規によって換算し、5段階表示をする。

⑥ 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4.5 6 7.8 9	篆刻 用具・用材の扱い 線質の研究 臨書の初歩 臨書の実践	落款印制作 筆の水洗い、教室内の用具の扱い、用紙・反故の扱いなど 入筆角度・運筆速度と線質 楷書 九成宮醜泉銘 楷書 自書告身・賀蘭汗造像記	1書的美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】
10 11 12 1 2 3	創作の基本 紙面構成研究 墨色研究 背景構成 紙の加工 筆の変化 仮名 テーマ作品	線質・文字造形の基本 隙間のない紙面構成、 余白強制紙面構成 潤・渴の変化、墨の濃淡 濃淡墨の重ね書き、白黒反転作品 揉み紙作品 筆以外のモノを使って表現 仮名入門(基本用筆・いろは) 新入生へのメッセージ	1書的美を理解しようとし、進んで自ら書の表現に努めようとしているか。 【関】【鑑】 2作品の題材としてふさわしい選文および用具用材の選定ができるか。 【芸】【創】 3表現意図に即した線質・造形・墨色・紙面構成がなされているか。 【芸】【創】 4用具用材の特性、表現効果などを理解しているか。 【創】

29 家庭科シラバス

教科名	家 庭	科 目 名	家庭基礎
科目の目標	衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに、日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。		
履修学年	1 年	類 型	
単 位 数	2単位	履 修 形 態	必 修
教 科 書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)		副教材等

1. 学習の目標

- (1) 自立した生活ができる力、自己実現をはかる生活を目指す力をつける。
- (2) 人とともに生きる共生のための能力を養う。
- (3) よりよい社会環境、生活環境を構築していくために主体的に活動する意欲と態度を身につける。

2. 学習内容と授業の進め方

- (1) 「生活の自立のために」の章では、衣食住、環境にかかわるさまざまな事項を実習・演習を適宜行いながら学習する。
- (2) 「人の一生、家族・福祉」の章では、家族、保育、高齢にかかわることを、ディスカッションやワークショップ等を通じて学ぶ。

3. 学習の留意点

- (1) 講義主体の授業では、家庭生活や衣食住に関わる基本的な諸事項に関する理解を深める。
- (2) 実習・実験は、安全・清潔に留意し、自ら進んでグループのメンバーと協力して行う。
- (3) ディスカッションやワークショップ等は、積極的に発言し、協力して活動する。

4. 評価の観点

- (1) 家庭生活への関心・意欲・態度【**関**】 衣食住や家族の生活について関心を持ち、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。
- (2) 生活を創意工夫する力【**思**】 家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見つけ、その解決を目指して考え、自分なりに工夫する。
- (3) 生活の技能【**技**】 衣食住や家族の生活に必要な基礎的な技能を身につけている。
- (4) 家庭生活への知識・理解【**知**】 衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について理解している。

5. 評価の方法

前期期末考査、後期期末考査を実施。提出されたレポート、日常の授業への参加態度等とあわせて総合的に評価する。

6. 授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)	
4	オリエンテーション 「生活の自立のために」 衣生活	含:他己紹介①	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住に関する諸事項に関心を持ち、授業に意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・衣食住に関する身近な課題を見つけ、解決のための工夫をしているか。【思】 ・基礎縫い実技テストや提出物で生活の技能を評価する。【技】 ・前期期末考査で衣食住に関する基礎的事項についての理解を評価する。【知】 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・繊維② ・DVD『洗濯の科学』① ・「着ることを考える① ・レポート作成「エシカルファッション」(同時実施:基礎縫い実技テスト)④ 		
6	環境に配慮した暮らし	・環境を考えるワークショップ②		
7	食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べること」の意味① ・DVD『人間は何を食べているか』① ・5大栄養素と栄養計算③ ・栄養バランスを整えるその他の方法① ・食中毒と食品の安全① ・調理実習1～4(6～2月に分散して実施) <ul style="list-style-type: none"> 調理室の使い方と調理実技テストについて① 6月:太巻きと豆腐白玉② 9月:さんまグリル、グラタン② 1月:調理実技テスト① 2月:いちご大福① 8月:夏休みの宿題「家族のための食事作り」振り返り① 		
8	住生活	・安全で衛生的な住まい①		
9		・災害から身を守る①		
		前期期末考査②		
10	「人の一生、家族・福祉」 人の一生と青年期	・私たちの生き方はどう変わったか?①		<ul style="list-style-type: none"> ・家族に関する諸事項や人々の生き方の変化に興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいるか。【関】 ・家族や家庭に関する身近な課題を見つけ、その解決のための工夫をしているか。【思】
11		<ul style="list-style-type: none"> ・家族をめぐる法律① ・ワークルールを学ぶ② ・ディスカッション「過労死を考える」「性別役割分業観」② ・「家族ドラマ」を作る <ul style="list-style-type: none"> あなたは将来、どうしたい?① 特別授業「家族ドラマを作るということ」② ドラマ制作④ 発表② まとめ①(アサーティブな主張とは?) 		
12				
1	子育てを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・特別授業「私の未来プロジェクト ライフプランと出産・子育て」② ・乳幼児の心身の発達① ・子育てに最も大切なこと① ・子どもと遊び① 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期期末考査で家族・福祉に関する基礎的事項についての理解を評価する。【知】 	
2	高齢期の生活 生活を支える仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖医療についてディスカッション「新型出生前診断」① ・現代の子育てと育児不安① ・人生の最後を考える(認知症、介護、死)③ ・DVD『終を迎える日々』① 		
3	消費者問題	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな支払い方法、金利計算① ・グリーン・コンシューマー① 		
		後期期末考査②		
		<ul style="list-style-type: none"> ・特別授業「茶の湯は『和』の総合芸術」① ・1年間のまとめと振り返り① 		